

鹿児島県医師会 腎臓検診 判定参考資料（2026.2改訂）

■ 1. 低身長判定基準値：－2SD以下

表 男子、女子の各年齢の0、3、6、9か月時の－2SD値（単位cm）²⁵⁾

男 子					女 子				
	0か月	3か月	6か月	9か月		0か月	3か月	6か月	9か月
6歳	103.7	105.2	106.7	108.2	6歳	103.5	104.9	106.0	107.5
7歳	109.4	110.9	112.3	113.5	7歳	108.8	110.0	111.5	112.8
8歳	114.7	115.9	117.1	118.5	8歳	113.8	115.1	116.3	117.6
9歳	119.7	120.8	122.2	123.4	9歳	118.7	120.0	121.1	122.6
10歳	124.6	125.7	126.9	127.9	10歳	123.9	125.4	126.7	128.4
11歳	129.0	130.0	131.1	132.4	11歳	130.3	132.0	133.7	135.4
12歳	133.9	135.4	136.7	138.7	12歳	137.0	138.7	140.3	141.3
13歳	140.7	142.6	144.6	146.6	13歳	142.2	143.4	144.1	144.6
14歳	148.6	150.5	152.5	153.7	14歳	145.0	145.8	146.2	146.3
15歳	154.7	155.8	156.8	157.2	15歳	146.5	146.8	146.9	147.0
16歳	157.8	158.1	158.5	158.7	16歳	147.1	147.2	147.3	147.4
17歳	158.9	159.0	159.2		17歳	147.5	147.6	147.5	

■ 2. 小児高血圧判定基準値（mmHg）²⁶⁾

1) 血圧は3回以上測定し、安定した2つの測定値の平均を採用します。米国のガイドラインでは、一般的には自動電子血圧計で測定し、初回の血圧が高い場合に（血圧基準値の90パーセンタイル以上）、聴診法で2回測定しそれらの平均値をとることがすすめられています。

2) 血圧は1歳以上13歳未満と13歳以上で基準が異なります。高血圧 Stage 1は高血圧の管理が必要で、生活指導や薬物治療が必要となる場合もあるため専門機関への紹介が必要です。高血圧 Stage 2は臓器障害などの合併症を引き起こす可能性があり、直ちに専門施設にご紹介ください。

表 2017年版の米国小児高血圧ガイドラインにおける50パーセンタイル身長小児の性別・年齢別血圧

年齢 (歳)	男児			女児		
	90th	95th	95th + 12mmHg	90th	95th	95th + 12mmHg
1	100/53	103/55	115/67	100/56	103/60	115/72
2	102/56	106/59	118/71	103/60	106/64	118/76
3	103/59	107/62	119/74	104/62	108/66	120/78
4	105/62	108/66	120/78	106/65	109/69	121/81
5	106/65	109/69	121/81	107/67	110/71	122/83
6	107/68	111/71	123/83	108/69	111/72	123/84
7	109/70	112/73	124/85	109/70	112/73	124/85
8	110/71	114/74	126/86	110/72	113/74	125/86
9	110/73	115/76	127/88	111/73	114/75	126/87
10	112/74	116/77	128/89	112/73	116/76	128/88
11	114/75	118/78	130/90	114/74	118/77	130/89
12	117/75	121/78	133/90	118/75	122/78	134/90
13	121/75	125/78	137/90	121/76	124/79	136/91
14	126/77	130/81	142/93	122/76	125/80	137/92
15	128/79	132/83	144/95	122/77	126/81	138/93
16	129/80	134/84	146/96	123/77	127/81	139/93
17	131/81	135/85	147/97	124/77	127/81	139/93

表 小児の血圧分類

	1歳以上 13歳未満	13歳以上
正常	収縮期・拡張期とも 90 パーセンタイル未満	収縮期・拡張期とも 120/80mmHg 未満
高値血圧	収縮期または拡張期が 90 パーセンタイル以上 95 パーセンタイル未満 または 120/80mmHg 以上 95 パーセンタイル未満	拡張期が 80mmHg 未満であるが、 収縮期が 120mmHg 以上 129mmHg 未満
高血圧 Stage 1	収縮期または拡張期が 95 パーセンタイル以上 95 パーセンタイル+12mmHg 未満 または 130/80mmHg 以上 139/89mmHg 以下	収縮期または拡張期が 130/80mmHg 以上 139/89mmHg 以下
高血圧 Stage 2	収縮期または拡張期が 95 パーセンタイル+12mmHg 以上 または 140/90mmHg 以上	収縮期または拡張期が 140/90mmHg 以上

■ 3. 血清クレアチニン値基準値（s-Cr 基準値：酵素法）²⁷⁾ 97.5 パーセント 値以上は腎機能障害あり

A：3か月以上12歳未満（男女共通）

年齢	2.5 パーセント 値	50 パーセント 値	97.5 パーセント 値
3-5か月	0.14	0.2	0.26
6-8か月	0.14	0.22	0.31
9-11か月	0.14	0.22	0.34
1歳	0.16	0.23	0.32
2歳	0.17	0.24	0.37
3歳	0.21	0.27	0.37
4歳	0.2	0.3	0.4
5歳	0.25	0.34	0.45
6歳	0.25	0.34	0.48
7歳	0.28	0.37	0.49
8歳	0.29	0.4	0.53
9歳	0.34	0.41	0.51
10歳	0.3	0.41	0.57
11歳	0.35	0.45	0.58

B：12歳以上17歳未満（男女別）

年齢	2.5 パーセント 値		50 パーセント 値		97.5 パーセント 値	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
12歳	0.4	0.4	0.53	0.52	0.61	0.66
13歳	0.42	0.41	0.59	0.53	0.8	0.69
14歳	0.54	0.46	0.65	0.58	0.96	0.71
15歳	0.48	0.47	0.68	0.56	0.93	0.72
16歳	0.62	0.51	0.73	0.59	0.96	0.74

■ 4. 血清 CysC 基準値（mg/L）^{28, 29)} 97.5 パーセント 値以上は腎機能障害あり

A：3か月以上12歳未満（男女共通）

年齢	2.5 パーセント 値	50 パーセント 値	97.5 パーセント 値
3-5か月	0.88	1.06	1.26
6-11か月	0.72	0.98	1.25
12-17か月	0.72	0.91	1.14
18-23か月	0.71	0.85	1.04
2-11歳	0.61	0.78	0.95

B：12歳以上17歳未満（男女別）

年齢	2.5 パーセント 値		50 パーセント 値		97.5 パーセント 値	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
12-14歳	0.71	0.61	0.86	0.74	1.04	0.91
15-16歳	0.53	0.46	0.75	0.61	0.92	0.85

■ 5. eGFR³⁰⁾

eGFR (ml/分/1.73m²) = k × 身長cm / 血清Cr値 k=0.35（日本人小児 2～11歳）

■ 6. eGFR (ml/分/1.73m²) とCKDステージの対比

eGFR	≥90	60～89	30～59	15～29	<15	透析患者：Dをつける 移植患者：Tをつける
CKDステージ	1	2	3	4	5	

■ 7. 暫定診断名と事後措置判定の目安

暫定診断		尿潜血	尿蛋白	Up/Ucr (※)	尿沈渣	事後措置（管理区分・専門医紹介基準）・他
体位性蛋白尿	早朝尿	— ～ ±	— ～ ±	<0.15	正常	① 管理区分Eで経過をみる ② 1年に1回程度は安静時尿か早朝尿で蛋白陰性を確認する
	随時尿	— ～ ±	— ～ ±	≥0.15		
異常なし		— ～ ±	— ～ ±	<0.15	RBC≤4/視野	なし
無症候性血尿		— ～ ±	— ～ ±	<0.15	RBC≥5/視野	超音波検査基準を満たす場合は、超音波を行う 血液・尿検査三次紹介基準を満たす場合は専門医を紹介する 家族歴に腎不全や難聴、尿路結石がないことを確認する ① 最初の1年は3か月に1回、その後は1年に1～2回程度の検尿と、1年に1回程度の血液検査を行い、蛋白尿や腎機能低下を警戒 ② 管理区分Eで経過をみる
無症候性蛋白尿		— ～ ±	— ～ ±	≥0.15	RBC≤4/視野	超音波検査基準を満たす場合は、超音波検査を行う 血液・尿検査三次紹介基準を満たす場合は専門医を紹介する ① 最初の3か月は1か月に1回、その後は2～3か月に1回程度で検尿と、1年に1～2回程度の血液検査を行い、尿所見や腎機能低下の増悪を警戒する
無症候性血尿・蛋白尿		— ～ ±	— ～ ±	≥0.15	RBC≥5/視野	② Up/Ucr0.5g/gCr 以上や、慢性腎臓病で正常の半分以下の腎障害がある場合、透析中の場合は運動制限を検討し、管理区分A～Dを決定する ③ Up/Ucr0.5g/gCr 未満は、管理区分Eで経過をみる

暫定診断	尿 潜 血	尿 蛋 白	Up/Ucr (※)	尿沈渣	事後措置（管理区分・専門医紹介基準）・他
白血球尿、 尿路感染症の疑い	— ～ ±	— ～ ±	<0.15	WBC≥5/視野	超音波検査基準を満たす場合は、超音波を行う 血液・尿検査三次紹介基準や超音波紹介基準を 満たす場合は専門医を紹介する ① 最初の1年は3か月に1回、その後は1年に 1～2回程度の検尿と、1年に1回程度の血 液検査や超音波検査を行い、蛋白尿や腎機能 低下の出現を警戒し、超音波所見の変化に注 意する ② 管理区分Eで経過をみる
高β ₂ ミクログロブリン尿 (先天性腎尿路異常の疑い)	尿β ₂ MG/尿Cr比が 小学生 0.35μg/mgCr 以上 中学生 0.30μg/mgCr 以上				
その他	急性腎炎症候群、慢性腎炎症候群、紫斑病性腎炎、ネフローゼ症候群、 ループス腎炎、遺伝性腎炎、尿路異常、腎不全、ナットクラッカー現象、 その他（尿糖陽性は尿糖検診へ）				